

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
芸 術	〔音楽Ⅰ〕
履修学科	普通科・総合学科
履修学年	第1学年
履修単位	単位 2
教科書	音楽Ⅰ Tutti+ (教出)
副教材	MUSIC NOTE(九州高等学校音楽教育研究会) 高校生の歌集 つどい(同上)

科目の指導目標
音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

学期	月	単元名【分野】	学習内容	評価の観点		
				①	②	③
1学期	4	オリエンテーション 校歌を歌おう【歌唱】 日本歌曲を歌おう【歌唱】	音楽Ⅰの学習内容、評価方法、授業の受け方を理解する。そして、校歌の歌詞に込められた思いを読み解き、豊かな響きの声で歌う【SDGs14:海の豊かさを守ろう】【SDGs15:陸の豊かさを守ろう】。また、「この道」などの日本歌曲の詞の情景を味わい、表現を工夫して歌う。	○ ○	○	○ ○ ○
	5	ドイツ歌曲を歌おう【歌唱】 オペラの世界へようこそ【鑑賞】	「野ばら」の詞の内容を理解し、シューベルト、ヴェルナーがそれぞれ作曲した音楽の違いを味わいながら、発音などの表現を工夫して歌う。また、ジグシュピールである歌劇「魔笛」を鑑賞する。	○ ○	○ ○	○ ○
	6	キーボード演奏にチャレンジ① 【器楽】(コード理論・簡易な伴奏付け)	コードネームについて学習し、和音の仕組みを理解する。また、基本的なキーボードハーモニーを押さえ、簡易な伴奏付けをする技術を身につける。	○		○
	期末考査		考査はありません。	／	／	／
	7	クラシックギターを奏でる【器楽】	クラシックギターの基本的な奏法(アポヤンドとアルアイレなど)を理解し、旋律及び伴奏(分散コードやアルペジオなど)の奏法を習得する。	○		○
2学期	9	ギターでアンサンブルしよう【器楽】	クラシックギターで旋律と伴奏のパートに分かれ、周りの音を聴き合いながら、アンサンブルする。		○	○
	10	世界の楽器(世界の諸民族)【鑑賞】 キーボード演奏にチャレンジ【器楽】 (旋律演奏)	世界の諸民族の楽器について学び、我々が馴染みのある楽器と比較して、民族楽器の特徴を学習する【SDGs10:人や国の不平等をなくそう】。また、キーボードを使って、旋律を演奏する技術を習得する。	○ ○	○ ○	○ ○
	11	BGMの世界へようこそ【鑑賞・創作】	身の回りのBGMがどのような役割を担っているか学び、BGMの効果について学習する。そして、昔話にふさわしいBGMを選曲して、互いの読み聞かせを味わう。	○	○	○
	期末考査		考査はありません。	／	／	／
	12	ヴァイオリンを演奏しよう!【器楽】	ヴァイオリンの楽器の構造や奏法、また基本的な奏法について学び、簡易な楽曲を演奏する。	○		○
3学期	1	ソルフェージュの世界【歌唱・楽典】 合唱にチャレンジ①【歌唱】	コールユーブンゲン教材とし、音程感覚を身につける学習活動に取り組む。また、二部合唱(同声または混声)に取り組み、周りの声やピアノに合わせて歌う。	○ ○	○ ○	○ ○
	2	合唱にチャレンジ②【歌唱】 世界の声(世界の諸民族)【鑑賞】	混声三部合唱に取り組み、各パートの役割を理解しながら、周りの音に合わせて歌う。また、世界の諸民族の歌唱について学び、我々が馴染みのある歌と比較して、民族の歌の特徴を学習する【SDGs10:人や国の不平等をなくそう】。	○ ○	○ ○	○ ○
	学年末考査		考査はありません。	／	／	／
	3	パートの役割を理解してアンサンブルしよう【総合的表現】 まとめ	声または楽器による楽曲を選択し、それぞれのパートの役割を理解し、表現を工夫して演奏する。また、1年間のまとめを行う。	○	○	○ ○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解する ・ 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける	・ 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる	・ 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情をもつ ・ 感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を大切にする

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）

音楽の授業では歌唱、器楽、鑑賞、創作の4つの分野を学習していきます。これらの授業で必要になるのは、教科書、筆記用具、授業に参加する積極的な意欲です。授業を受ける態度は平常点に大きく左右されるので、無断遅刻、欠課、授業中の居眠り等授業妨害はしないようにしましょう。

また入学時の芸術科目選択時に自分で選んだのですから、1年間しっかりと授業に参加し、偉大な芸術家たちが残した、崇高な精神に少しでも触れられるよう頑張ってください。

音楽の授業の成績の算出は、授業の出席状況、参加時の①主体的に学習に取り組む態度と、楽器演奏などの実技を学ぶ際の②知識・技能③思考・判断・表現と、また授業内で実施する筆記テストおよびワークシートの提出状況を総合的に判断して行っていきます。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
芸 術	[音楽Ⅱ]
履修学科	普通科・総合学科
履修学年	第2学年
履修単位	単位 2
教科書	音楽Ⅱ Tutti+ (教出)
副教材	MUSIC NOTE(九州高等学校音楽教育研究会) 高校生の歌集 つどい(同上)

科目の指導目標
音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

学期	月	単元名	学習内容	評価の観点		
				①	②	③
1学期	4	オリエンテーション 校歌を歌おう【歌唱】 リズムアンサンブルにチャレンジ【器楽】	音楽Ⅱの学習内容、評価方法、授業の受け方を理解する。そして、校歌の歌詞に込められた思いを読み解き、豊かな響きの声で歌う【SDGs14:海の豊かさを守ろう】【SDGs15:陸の豊かさを守ろう】。また、声や体を使ったアンサンブルに取り組み、拍の流れを理解する。	○ ○	○	○ ○ ○
	5	英語の歌を歌おう【歌唱】 ミュージカルの世界へようこそ【鑑賞】	英語による歌の詞の内容を理解し、強弱などの表現を工夫して歌う。また、ミュージカル「キャッツ」を鑑賞し、舞台芸術の表現の特徴について学習する【SDGs16:平和と公平をすべての人に】。	○ ○	○ ○	○ ○
	6	四季の歌を歌おう【歌唱(指揮)】 キャッチフレーズを作ろう【鑑賞・創作】	様々な四季の歌を、情景を思い浮かべながら歌い、そしてそのイメージを歌い手から引き出す指揮について考える。また、CM等で使用される短く旋律的なキャッチフレーズについて学習し、それを参考にしながらオリジナルのキャッチフレーズを創作する【SDGs9:産業と技術革新の基盤をつくろう】。	○ ○	○ ○	○ ○
	期末考査		考査はありません。	△	△	△
	7	ギターを奏でる【器楽】	ギターの様々なコードの種類を学び、ストロークによるコード演奏の技術を習得する。	○		○
2学期	9	ギターの弾き語りにチャレンジ【器楽・歌唱】	ギターでコードを演奏しながら、フォークソングの弾き語りに取り組む。ギター演奏に気を取られず、堂々と歌えるよう留意する。		○	○
	10	イタリア歌曲を歌おう【歌唱】 オペラの世界へようこそ【鑑賞】	イタリア語による歌の詞の内容を理解し、それぞれの曲の音楽の違いを味わいながら、発音などの表現を工夫して歌う。また、イタリア語の歌劇「椿姫」を鑑賞する。	○ ○	○ ○	○ ○
	11	日本歌曲を歌おう【歌唱】 日本の音楽【鑑賞】※郷土音楽	「からたちの花」などの日本歌曲の詞の情景を味わい、表現を工夫して歌う。また雅楽、声明、箏曲、能、歌舞伎、平曲といった日本の伝統音楽を鑑賞し、それぞれの特徴を理解する。	○ ○	○ ○	○ ○
	期末考査		考査はありません。	△	△	△
	12	ヴァイオリンを演奏しよう！【器楽】	ヴァイオリンの楽器の構造や奏法、また基本的な奏法について学び、簡易な楽曲を演奏する。	○		○
3学期	1	合唱にチャレンジ①【歌唱】 世界の声と楽器（世界の諸民族）【鑑賞】	混声三部合唱に取り組み、各パートの役割を理解しながら、周りの音に合わせて歌う。また、世界の諸民族の歌と楽器について学び、我々が馴染みのある音楽と比較して、民族音楽の特徴を学習する【SDGs10:人や国の不平等をなくそう】。	○ ○	○ ○	○ ○
	2	合唱にチャレンジ②【歌唱】 歌の形式について学ぼう【楽典】	混声三部合唱の演奏をさらに深め、より豊かな表現を追求する。また、様々な歌を教材とし、歌の形式（歌唱曲やポップスなど）について理解する。	○ ○	○	○ ○
	学年末考査		考査はありません。	△	△	△
	3	歌作りにチャレンジ【総合的表現】 まとめ	歌作りの手法について学び、形式を活かしながら、オリジナルの歌を創作する。また、1年間のまとめを行う。	○	○	○ ○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考力・表現力・判断力 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解する ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける	・自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる	・主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情をもつ ・感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を大切にする

担当者から(授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた)
音楽の授業では歌唱、器楽、鑑賞、創作の4つの分野を学習していきます。これらの授業で必要になるのは、教科書、筆記用具、授業に参加する積極的な意欲です。授業を受ける態度は平常点に大きく左右されるので、無断遅刻、欠課、授業中の居眠り等授業妨害はしないようにしましょう。 また入学時の芸術科目選択時に自分で選んだのですから、1年間しっかりと授業に参加し、偉大な芸術家たちが残した、崇高な精神に少しでも触れられるよう頑張ってください。 音楽の授業の成績の算出は、授業の出席状況、参加時の①意欲・関心・態度と、楽器演奏などの実技を学ぶ際の②思考・判断③技能・表現④知識・理解と、また授業内で実施する筆記テストおよびワークシートの提出状況を総合的に判断して行っていきます。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
芸 術	[音楽Ⅲ]
履修学科	普通科
履修学年	第3学年
履修単位	単位 2
教科書	音楽Ⅲ 改訂版(教出)
副教材	なし

科目の指導目標
音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性について理解するとともに、創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫したり音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりすることができるようになる。 (3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、音楽文化を尊重し、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

学期	月	単元名	学習内容	評価の観点		
				①	②	③
1学期	4	オリエンテーション 校歌を歌おう【歌唱】 音楽表現の基礎【歌唱・器楽・創作】	音楽Ⅲの学習内容、評価方法、授業の受け方を理解する。そして、校歌の歌詞に込められた思いを読み解き、豊かな響きの声で歌う【SDGs14:海の豊かさを守ろう】【SDGs15:陸の豊かさを守ろう】。また、歌唱・器楽・創作の基礎について振り返りを行う。	○ ○		○ ○
	5	ピアノ演奏基礎①【器楽】 声楽基礎①【歌唱】 ソルフェージュ入門【歌唱・楽典】 ピアノ曲・声楽曲の鑑賞【鑑賞】	ソナタ形式のピアノ作品の演奏に取り組む。そして、教本を使い、発声法やソルフェージュの基本を身につける。また、ピアノ曲・声楽曲を鑑賞し、奏法や表現の工夫について研究する。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
	6	ピアノ演奏基礎②【器楽】 声楽基礎②【歌唱】 聴音入門【楽典】 1学期発表会【鑑賞】	ソナタ形式のピアノ作品に取り組む、表現を工夫して演奏する。そして、日本・イタリア・ドイツのいずれかの歌曲を声楽課題として取り組む。また、初歩的な聴音について学習する。さらに、1学期の学習の成果を、発表会で披露する。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
	期末考査		考査はありません。			
	7	和声入門【楽典】 ※専門分野選択及び夏季課題設定	初歩的な和声法について学習する。また、2学期から選択する専門分野と課題の選定を行う。	○	○	○
2学期	9	表現研究①【歌唱 or 器楽 or 創作】 和声基礎【楽典】 ソルフェージュ基礎【歌唱・楽典】	選択した専門分野とその課題に取り組む。また、和声の基礎やソルフェージュの基礎について学習する。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
	10	表現研究②【歌唱 or 器楽 or 創作】 聴音基礎【楽典】	引き続き選択した専門分野とその課題に取り組む。また、聴音の基礎について学習する。	○ ○	○ ○	○ ○
	11	表現研究③【歌唱 or 器楽 or 創作】 2学期発表会【鑑賞】	引き続き選択した専門分野とその課題に取り組む。また、2学期の学習の成果を、発表会で披露する。	○ ○	○ ○	○ ○
	期末考査		考査はありません。			
	12	アナリーゼ入門【楽典】 音楽をプレゼンテーションしよう【総合的】 ※冬季課題設定	初歩的なアナリーゼ(楽曲分析)について学習し、自身が取り組む楽曲などの分析を行う。また、アナリーゼを活かして、楽曲の魅力をPRするプレゼンテーションに取り組む。	○ ○	○ ○	○ ○
3学期	1	表現研究④【歌唱 or 器楽 or 創作】 意見交換会【鑑賞】 卒業コンサート【総合的】	選択した課題に取り組む。そして、取り組んだ作品や演奏について意見交換を行い、より豊かな表現を目指す。また、これまで取り組んできた作品や演奏を柱にして、卒業コンサートを計画・運営する【SDGs4:質の高い教育をみんなに】。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
	2					
	卒業考査		考査はありません。			
	3					

評価の観点 ①知識・技能 ②思考力・表現力・判断力 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解する ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける	・自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる	・主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情をもつ ・感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を大切にする

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）

音楽の授業では歌唱，器楽，鑑賞，創作の4つの分野を学習していきます。これらの授業で必要になるのは，教科書，筆記用具，授業に参加する積極的な意欲です。授業を受ける態度は平常点に大きく左右されるので，無断遅刻，欠課，授業中の居眠り等授業妨害はしないようにしましょう。 また入学時の芸術科目選択時に自分で選んだのですから，1年間しっかりと授業に参加し，偉大な芸術家たちが残した，崇高な精神に少しでも触れられるよう頑張ってください。 音楽の授業の成績の算出は，授業の出席状況，参加時の①主体的に学習に取り組む態度と，楽器演奏などの実技を学ぶ際の②知識・技能③思考・判断・表現と，また授業内で実施する筆記テストおよびワークシートの提出状況を総合的に判断して行っていきます。
--

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
芸 術	[演奏研究]
履修学科	総合学科
履修学年	第2学年
履修単位	単位 2
教科書	なし
副教材	なし

科目目標
音楽作品の演奏や鑑賞の学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 演奏における客観性と多様性について理解を深めるとともに、理解したことを生かした演奏をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 音楽の様式を踏まえた演奏に関する思考力、判断力、表現力等を育成する。 (3) 音楽作品を尊重して演奏したり鑑賞したりする態度を養う。

学期	月	単元名	学習内容	評価の観点		
				①	②	③
1 学期	4	オリエンテーション 楽典の基本を学ぼう ピアノの基本を学ぼう①	演奏研究の学習内容、評価方法、授業の受け方を理解する。また楽典の基礎について確認する。そして、ハノンピアノ教則本を教材とし、ピアノ演奏に必要な手の筋力をトレーニングする。	○ ○		○ ○ ○
	5	ピアノの基本を学ぼう②	ハノンピアノ教則本の片手から両手の練習、また様々な練習曲やリズム変えに取り組み、ピアノを弾くための基本的な技術を修得する。	○		○
	6	パートの役割について知ろう	メロディ、ハーモニー、ベース、リズムの役割を理解する。またコードネームからハーモニー、ベースを設定する技術を習得する。	○	○	○
		期末考査	考査はありません。	△	△	△
	7	ギターの基本を学ぼう	ギターで旋律や伴奏(ストローク、アルペジオ)を演奏する方法を習得する。	○		○
2 学期	9	リコーダーの基本を学ぼう	様々なリコーダーの種類を理解し、息づかい、サミング、運指などの奏法を習得する。	○		○
	10	打楽器の基本を学ぼう	ドラムセットや他の打楽器の種類や奏法を習得する。	○		○
	11	アンサンブルの基本を学ぼう	アンサンブルの定義や種類（主に重奏及び重唱）について理解し、初歩的なアンサンブルに取り組む。	○	○	○
		期末考査	考査はありません。	△	△	△
	12	アンサンブルにチャレンジ	アンサンブル曲の演奏に取り組む。	○	○	○
3 学期	1	アンサンブルにチャレンジ ※総合学科発表会にて演奏披露	アンサンブル曲の演奏に取り組む。また、ステージで演奏する際のマナーや注意点について理解する【SDGs4:質の高い教育をみんなに】。	○	○	○
	2	クラシック音楽における合奏・合唱 ①	クラシック音楽における器楽や声楽の役割を理解し、クラシック音楽の合奏及び合唱に取り組む。	○	○	○
		学年末考査	考査はありません。	△	△	△
	3	クラシック音楽における合奏・合唱 ②、まとめ	クラシック音楽の合奏及び合唱に取り組む。また、1年間のまとめを行う。	○	○	○ ○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考力・表現力・判断力 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識するべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解する ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける	・自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる	・主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情をもつ ・感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を大切にす

担当者から(授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた)

演奏研究の授業では実技を中心に、鑑賞や創作を取り入れながら学習していきます。これらの授業で必要になるのは、筆記用具、授業に参加する積極的な意欲です。授業を受ける態度は平常点に大きく左右されるので、無断遅刻、欠課、授業中の居眠り等授業妨害はしないようにしましょう。

また本科目は自分で選んだのですから、1年間しっかりと授業に参加し、偉大な芸術家たちが残した、崇高な精神に少しでも触れられるよう頑張ってください。

音楽の授業の成績の算出は、授業の出席状況、参加時の①意欲・関心・態度と、楽器演奏などの実技を学ぶ際の②思考・判断③技能・表現④知識・理解と、また授業内で実施する筆記テストおよびワークシートの提出状況を総合的に判断して行っていきます。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
芸 術	[演奏研究]
履修学科	総合学科
履修学年	第3学年
履修単位	単位 3
教科書	なし
副教材	なし

科目目標
音楽作品の演奏や鑑賞の学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 演奏における客観性と多様性について理解を深めるとともに、理解したことを生かした演奏をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 音楽の様式を踏まえた演奏に関する思考力、判断力、表現力等を育成する。 (3) 音楽作品を尊重して演奏したり鑑賞したりする態度を養う。

学期	月	単元名	学習内容	評価の観点		
				①	②	③
1 学期	4	オリエンテーション 楽典を学ぼう ピアノで楽曲を演奏しよう①	演奏研究の学習内容、評価方法、授業の受け方を理解する。また楽典について確認する。そして、バイエルピアノ教則本を教材とし、ピアノ楽曲の演奏に必要な技術を身につける。まずは片手ずつの演奏に取り組む。	○ ○	○ ○	○ ○
	5	ピアノで楽曲を演奏しよう②	バイエルピアノ教則本を教材とし、ピアノ楽曲の演奏に必要な技術を身につける。両手での演奏に取り組む。	○	○	○
	6	ピアノで楽曲を演奏しよう③ ピアノ発表会	ブルグミュラー 25のやさしい練習曲を教材とし、簡易なピアノ作品の演奏に取り組む。また、1学期に取り組んだピアノ演奏の発表会を行う。	○ ○	○ ○	○ ○
	期末考査		考査はありません。	△	△	△
	7	ピアノで伴奏付けをしよう	童謡を教材とし、コードネームから左手で伴奏付けを行う技術を身につける。	○	○	○
2 学期	9	パート編曲にチャレンジ	歌謡曲を教材とし、コードネームからアンサンブルのパートを編曲する技術を身につける。また、編曲した楽曲を合奏する。	○	○	○
	10	デュオ・トリオに挑戦	少人数のアンサンブルを通して、仲間との演奏の合わせ方、表現の方法を身につける。	○	○	○
	11	アンサンブルにチャレンジ①	アンサンブル曲の演奏に取り組む。	○	○	○
	期末考査		考査はありません。	△	△	△
	12	アンサンブルにチャレンジ②	アンサンブル曲の演奏に取り組む。	○	○	○
3 学期	1	アンサンブルにチャレンジ③ まとめ ※総合学科発表会にて演奏披露	アンサンブル曲の演奏に取り組む。また、ステージで演奏する際のマナーや注意点について理解する【SDGs4:質の高い教育をみんなに】。そして、1年間のまとめを行う。	○	○	○ ○
	2			△	△	△
	学年末考査		考査はありません。	△	△	△
	3			△	△	△

評価の観点 ①知識・技能 ②思考力・表現力・判断力 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識するべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解する ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける	・自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる	・主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情をもつ ・感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を大切にす

担当者から(授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた)

演奏研究の授業では実技を中心に、鑑賞や創作を取り入れながら学習していきます。これらの授業で必要になるのは、筆記用具、授業に参加する積極的な意欲です。授業を受ける態度は平常点に大きく左右されるので、無断遅刻、欠課、授業中の居眠り等授業妨害はしないようにしましょう。

また本科目は自分で選んだのですから、1年間しっかりと授業に参加し、偉大な芸術家たちが残した、崇高な精神に少しでも触れられるよう頑張ってください。

音楽の授業の成績の算出は、授業の出席状況、参加時の①意欲・関心・態度と、楽器演奏などの実技を学ぶ際の②思考・判断③技能・表現④知識・理解と、また授業内で実施する筆記テストおよびワークシートの提出状況を総合的に判断して行っています。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
芸 術	[書道Ⅰ]

履修学科	普通科・総合学科
履修学年	第1学年
履修単位	単位 2
教科書	書Ⅰ・プライマリーブック(教図)
副教材	(ー)

科目の指導目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。

(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。

(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

学期	月	単元名	学習内容	評価の観点		
				①	②	③
1学期	4	オリエンテーション	芸術という教科の特性や書道の時間に何を学ぶべきかについて理解する。 基本的な書道用具以外の道具を使う書道に触れ、お互いの作品を鑑賞しながら芸術に対する興味を持つ。	○	○	○
	5	様々な書体の学習 ○楷書について知る	楷書の古典の歴史的な成り立ちや、筆使い、表現方法について興味を持つ。 それぞれの古典について基本的な筆使い、表現方法について学ぶ。	○	○	○
	6	様々な書体の学習 ○行書について知る	行書の古典の成り立ちや、筆使い、表現方法について学ぶ。 それぞれの古典について基本的な筆使い、表現方法について学ぶ。	○	○	○
		期末考査	実施しません			
	7	様々な書体の学習 ○隸書について知る	隸書の古典の歴史的な成り立ちや、筆使い、表現方法について興味を持つ。 それぞれの古典について基本的な筆使い、表現方法について学ぶ。 曹全碑について基本的な筆使いと表現方法について学ぶ。	○	○	○
2学期	9	5 「様々な書体の学習」 ○漢字仮名交じりの書	漢字仮名交じりの書について学び、表現の種類についても学ぶ。 漢字と仮名の調和した線質の表し方を学び、意図に基づく表現を工夫し、作品の全体感に統一性を持たせる。	○	○	○
	10	印鑑を作ろう①	篆刻の表現方法などについて興味関心を持つ。	○	○	○
	11	印鑑を作ろう②	篆刻の表現方法などについて興味関心を持つ。	○	○	○
		期末考査	実施しません			
	12	暮らしの中の書	カレンダー制作	○	○	○
3学期	1	様々な書体の学習①	仮名の歴史や基本的な筆使いと表現方法を学ぶ。(いろは歌、高野切第一種、他)	○	○	○
	2	様々な書体の学習②	仮名の歴史や基本的な筆使いと表現方法を学ぶ。(いろは歌、高野切第一種、他)	○	○	○

	学年末考査		実施しません			
	3	様々な書体の学習③	仮名の歴史や基本的な筆使いと表現方法を学ぶ。(いろは歌、高野切第一種、他)	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識するべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・書の表現の方法や形式，多様性などについて幅広く理解する ・書写能力の向上を図り，書の伝統に基づき，効果的に表現するための基礎的な技能を身に付ける	・書のよさや美しさを感じ，意図に基づいて構想し表現を工夫したり，作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え，書の美を味わい捉えたりすることができる	・主体的に書の幅広い活動に取り組み，生涯にわたり書を愛好する心情をもつ。 ・感性を高め，書の伝統と文化に親しみ，書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を大切にする。

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
1年間の書道学習の中で，基礎的なものの見方や表現方法について学びます。自分らしい作品を追求し，表現の楽しさや完成した時の喜びを感じとって下さい。また，作品の制作以外に，書道作品鑑賞・プリント学習などを実施します。書道の幅広い創造活動を通して書道を愛好する心情を育てていきます。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
芸 術	[書道Ⅱ]

履修学科	普通科・総合学科
履修学年	第2学年
履修単位	単位 2
教科書	書Ⅱ（教図）
副教材	（ ー ）

科目の指導目標
書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。 (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。 (3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

学期	月	単元名	学習内容	評価の観点			
				①	②	③	④
1学期	4	オリエンテーション	芸術という教科の特性や書道の時間に何を学ぶべきかについて理解する。 基本的な書道用具以外の道具を使う書道に触れ、お互いの作品を鑑賞しながら芸術に対する興味を持つ。	○	○	○	○
	5	様々な書体の学習 ○篆書について知る	篆書の古典の歴史的な成り立ちや、筆使い、表現方法について興味を持つ。 それぞれの古典について基本的な筆使い、表現方法について学ぶ。	○	○	○	○
	6	様々な書体の学習 ○篆刻について知る	篆刻の古典の成り立ちや、筆使い、表現方法について学ぶ。 それぞれの古典について基本的な筆使い、表現方法について学ぶ。	○	○	○	○
		期末考査	実施しません				
	7	様々な書体の学習 ○隸書について知る	隸書の古典の歴史的な成り立ちや、筆使い、表現方法について興味を持つ。 それぞれの古典について基本的な筆使い、表現方法について学ぶ。 曹全碑について基本的な筆使いと表現方法について学ぶ。	○	○	○	○
2学期	9	「様々な書体の学習」 ○草書について知る	草書の古典の歴史的な成り立ちや筆遣い、表現方法について興味を持つ。 それぞれの古典について基本的な筆使い、表現方法について学ぶ。	○	○	○	○
	10	様々な書体の学習 ○行書の学習	行書の歴史的な成り立ちと基本的な表現方法（晋詞銘について、祭姪文稿について、他）	○	○	○	○
	11	様々な書体の学習 ○楷書の学習	楷書の歴史的な成り立ちと基本的な表現方法（孟子子碑について、爨宝子碑について、楽毅論について、他）	○	○	○	○
		期末考査	実施しません				
	12	暮らしの中の水	カレンダー制作	○	○	○	○

3 学期	1	漢字の書の創作 ○一字書の学習	一字に込める想いを自分なりに整理し、筆 使いや墨の濃淡、紙質を変化させることで 文字の持つ意味を効果的に表現していくこ とを学ぶ。	○	○	○	○
	2	様々な書体の学習	仮名の歴史や基本的な筆使いと表現方法を 学ぶ。(いろは歌、高野切第一種、他)	○	○	○	○
	学年末考査		実施しません				
	3	様々な書体の学習	お互いに作品を鑑賞しあい、作品のよさや、 改善すべき点などを認め合う。	○	○	○	○

評価の観点 ①関心・意欲・態度 ②思考・判断 ③技能・表現 ④知識・理解

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解する ・書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付ける	・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができる	・主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情をもつ。 ・感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を大切にする。

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
1年間の書道学習の中で、基礎的なものの見方や表現方法について学びます。自分らしい作品を追求し、表現の楽しさや完成した時の喜びを感じとって下さい。また、作品の制作以外に、書道作品鑑賞・プリント学習などを実施します。書道の幅広い創造活動を通して書道を愛好する心情を育んでいきます。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
芸 術	[書道Ⅲ]

履修学科	普通科
履修学年	第3学年
履修単位	単位 2
教科書	書Ⅲ（教図）
副教材	(-)

科目の指導目標
書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、創造的に表現するための技能を身に付けるようにする。 (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に深く構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。 (3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化を尊重し、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

学期	月	単元名	学習内容	評価の観点			
				①	②	③	④
1学期	4	オリエンテーション 小作品鑑賞	芸術という教科の特性や書道の時間に何を学ぶべきかについて理解する。 個性的な筆文字作品を制作する書道に触れ、お互いの作品を鑑賞しながら芸術に対する興味を持つ。	○	○	○	○
	5	様々な書体の学習 ○篆書について知る	篆書の古典の歴史的な成り立ちや、筆使い、表現方法について興味を持つ。(甲骨文について・明、清時代の篆書について)	○	○	○	○
	6	様々な書体の学習 ○篆刻について知る	篆刻の古典の成り立ちや、筆使い、表現方法について学ぶ。 それぞれの古典について基本的な筆使い、表現方法について学ぶ。	○	○	○	○
		期末考査	実施しません				
	7	様々な書体の学習 ○隷書について知る	隷書の古典の歴史的な成り立ちや、筆使い、表現方法について興味を持つ。 それぞれの古典について基本的な筆使い、表現方法について学ぶ。 曹全碑について基本的な筆使いと表現方法について学ぶ。	○	○	○	○
2学期	9	「様々な書体の学習」 ○草書について知る	草書の古典の歴史的な成り立ちや筆遣い、表現方法について興味を持つ。 それぞれの古典について基本的な筆使い、表現方法について学ぶ。	○	○	○	○
	10	様々な書体の学習 ○行書の学習	行書の歴史的な成り立ちと基本的な表現方法(晋詞銘について、祭姪文稿について、他)	○	○	○	○
	11	様々な書体の学習 ○楷書の学習	楷書の歴史的な成り立ちと基本的な表現方法(孟法子碑について、爨宝子碑について、楽毅論について、他)	○	○	○	○
		期末考査	実施しません				
	12	暮らしの中の手紙	カレンダー制作	○	○	○	○

3 学期	1	漢字の書の創作 ○一字書の学習	一字に込める想いを自分なりに整理し、筆 使いや墨の濃淡、紙質を変化させることで 文字の持つ意味を効果的に表現していくこ とを学ぶ。	○	○	○	○
	2	様々な書体の学習	仮名の歴史や基本的な筆使いと表現方法を 学ぶ。(古今和歌集, 他)	○	○	○	○
	学年末考査		実施しません				
	3	様々な書体の学習	お互いに作品を鑑賞しあい、作品のよさや、 改善すべき点などを認め合う。	○	○	○	○

評価の観点 ①関心・意欲・態度 ②思考・判断 ③技能・表現 ④知識・理解

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）			
関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
・書道に対して関心を寄せ、意欲的に学習活動に取り組むことができるか。 ・美的感性を生かして、主体的に表現活動に取り組み、その喜びや楽しさを味わおうとする態度を持っているか。	・感性や想像力をはたらかせて、書道作品などのよさや美しさを感じ取ることができるか。 ・自己の表現意図に合った方法を、工夫したり構想したりすることができるか。	・創造的な表現をするために、表現方法や表現形式を選択し、効果的に生かす技能を身に付けているか。	・書道作品をさまざまな観点から鑑賞し、それらのよさや美しさを味わうことが、でき、自己の考えを述べることができるか。 ・書道について、作者・時代との関連、書道の歴史などを理解することができるか。

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
1年間の書道学習の中で、基礎的なものの見方や表現方法について学びます。自分らしい作品を追求し、表現の楽しさや完成した時の喜びを感じとって下さい。また、作品の制作以外に、書道作品鑑賞・プリント学習などを実施します。書道の幅広い創造活動を通して書道を愛好する心情を育んでいきます。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
芸 術	[美術 I]

履修学科	普通科・総合学科
履修学年	第 1 学年
履修単位	単位 2
教科書	(日文 高校生の美術 1)
副教材	(ー)

科目の指導目標
美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。 (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

●…表現 ▲…鑑賞 ■…オリエンテーション ◆…資料

学期	月	単元名	学習内容	評価の観点		
				(1)	(2)	(3)
一学期 (美術概論・彫刻・工芸)	4	■美術とは何か ●身近なものを描く ●人物を描く ◆鉛筆デッサン	・ 授業の目的、進め方、評価方法などについて知る。教科書を鑑賞する。(ワークシート) ・ クロッキー、鉛筆デッサン ・ 発想、構想の方法。色彩論。			
	5	■彫刻の魅力 ●抽象彫刻で表す	・ 彫刻に対する基礎的な理解をし、作品の構想につなげ、アイデアを練る。 ・ ロストワックス技法による作品の原型を制作する。	○	○	○
	6	▲作家研究	・ 石膏どり、焼成、鋳込みの段階を経て、金属へ置き換える。(キャストイング) ・ 紙やすり～研磨剤で仕上げる。 ・ 東洋と西洋の作風を比較し、鑑賞する。			
	期末考査		なし。状況により小テスト(美術史)を実施。	○		
	7	◆写真の基礎	・ 写真の基礎について学び、撮影を行う。			
二学期 (絵画・映像メディア表現)	9	●私の見つけた風景 ◆美術史年表 ◆西洋の美術	・ 7月～夏休みにかけて準備した写真をもとに主題を生成する。 ・ 参考となる絵画作品を鑑賞、分析し、構図や技法、作家のねらいなどを理解する。			
	10	◆さまざまな描画材料 ◆いろいろな絵の具 ◆油絵を描く	・ 絵の具の種類や組成について理解する。 ・ F6 号キャンパスに油彩で描く。	○	○	○
	11	▲視点と表し方	・ 道具の名称、正しい使い方、制作の手順を学習し、効果的な構図を理解する ・ 彩色を進めつつ、質感を描き分け、完成を目指す。 ・ 額装を施す。			
	期末考査		なし。状況により小テスト(美術史)を実施。	○		
	12	●アニメーションの手法 ◆アニメーションの基礎	・ アニメーションの基礎、歴史について学び、与えられた条件の下、アニメーションの制作を行う。(構想、絵コンテ) ・ 映像の歴史を学ぶ。	○	○	○

三学期 (デザイン)	1	●デザインの世界 ●ポスターで伝える ◆近代デザイン史	・ デザインの考え方、定義を理解し、SDGSに関する作品を制作することで、技術を習得する。 ・ コンセプトをしっかりと考える。 ・ 色彩の持つ力、配色の基本について学ぶ。 ・ アイデアを展開し、取材を行う。 ・ ICT 機器を用いて行う ・ デザインの歴史と、テクノロジーの関連性について考察する。	○	○	○
	2					
	期末考査		なし。状況により小テスト（美術史）を実施。	○		
	3	▲環境を彩る造形 ◆これからの私と美術	・ 1年間の学習を振り返り、美術の環境や今後の自分への繋がりを考える。	○	○	○

評価の観点 (1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
(1)「知識及び技能」	(2)「思考力、判断力、表現力等」	(3)「学びに向かう力、人間性等」
自分の考えた内容を、教材・教具を生かし表現できたか。造形の要素の働きや、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解しているか。	主題の生成や創造的な表現の構想ができていないか。自然や生活の中から美しさを感じ取り、豊かな発想をし、表現を工夫しているか。	作品に対する考察・まとめを通して他者と意見を交わし、異なる価値観についての比較・考察をすることができたか。それぞれの課題への前向きな取り組み。授業態度。出欠状況等。

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
「美術Ⅰ」の目標では、中学校美術科における学習を基礎にして、「美術Ⅰ」は何を学ぶ科目なのかということを明示し、感性や美意識、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすなどの造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを一層重視します。そのため、育成を目指す資質・能力を明確にし、生徒の発達の段階や特性を踏まえつつ、(1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理し、これらが実現できるよう「表現」及び「鑑賞」についての幅広い活動を展開し、美術を愛好する心情を育て、美術の諸能力を伸ばし、美術文化の理解を図ることをねらいとしています。 「表現」は「絵画・彫刻」、「デザイン」、「映像メディア表現」の三つの分野から成り、「鑑賞」は主体的、積極的に作品などからよさや美しさを感じ取り、批評し合うなどして幅の広い見方を獲得するとともに、日本の美術の特質や、日本及び諸外国の美術文化についての理解を深めることを重視しています。鑑賞も創造活動の一環です。対象に対し能動的に接し、感性を豊かに働かせましょう。 授業で使う物は、教科書、筆記用具、スケッチブック、ワークシート、教材などです。刃物や塗料、薬品類など、扱いに注意を要する物もあります。安全には充分留意し、説明を良く聞くようにしてください。また、移動教室になりますので、早めの移動を心がけ、遅刻をしないようにしましょう。挨拶、準備、後片付けはとても大切です。出来ない者は減点の対象にもなります。 評価は、(1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱から総合的に判断します。実技を伴いますので、作品点の割合が多くなりますが、出席状況や授業態度はもちろん、ワークシートの記入状況も加味しながら、成績を算出します。 皆さんが美術を選択し、共に学んでいけることを大変嬉しく思います。もしかしたら、高校三年間の中で一年間だけになるかもしれない、貴重な授業です。作品制作や鑑賞活動を通して、芸術文化の持つ普遍的な価値や素晴らしさ、新たなものをつくりだす楽しさを体験し、創造力や発想力を磨きましょう。美術に真剣に取り組めば、生涯にわたって役に立つ能力が身に付きます。頑張りましょう。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
芸 術	[美術Ⅱ]

履修学科	普通科
履修学年	第2学年
履修単位	単位 2
教科書	(日文 高校生の美術2)
副教材	(-)

科目の指導目標

美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

●…表現 ▲…鑑賞 ■…オリエンテーション ◆…資料

学期	月	単元名	学習内容	評価の観点		
				(1)	(2)	(3)
1学期(デザイン)	4	■表現とは何か ●線と明暗の表現 ●ものの質感を生かして	・ 授業の目的、進め方、評価方法などについて知る。教科書を鑑賞する。 ・ 静物画の歴史を学ぶ。 ・ 静物をデッサンし、構成を練る。 ・ 下地を作成する。 ・ 下描きを行う。 ・ 着彩(アクリラガッシュ)を行う。 ・ 仕上げる。	○	○	○
	5					
	6					
	期末考査		なし。状況により小テスト(美術史)を実施。	○		
	7	▲情報を伝えるデザイン ▲行為を誘うデザイン ▲庭園のデザイン ▲感覚に訴えるデザイン ◆コマ撮りアニメーション	・ 教科書, ワークシートを用い, デザインについて理解を深める。	○	○	○
2学期(絵画)	9	●デザインがもたらす統一感 ▲コンピュータを活用した表現	・ 与えられたテーマ(徳之島)についての調査・取材を行う。 ・ テーマに関わる発想, 構成を行う。 ・ ICT機器を用いて, デザインを行い, データにて提出。その後, シールに置き換える。			
	10					
	11					
	期末考査		なし。状況により小テスト(美術史)を実施。	○		
	12	◆現代につながる美術 ◆日本の前衛	・ 現代美術や日本の前衛美術について学ぶ。	○	○	○

三学期（デザイン）	1	●版の表現（ステンシル）	・ 版画について学ぶ ・ テーマ（社会情勢）に関わる発想，構成を行う。 ・ テーマに沿った写真を撮影し，ICT機器で編集する。 ・ 台紙に印刷を行い，切る。 ・ 版を刷る。	○	○	○
	2					
	学年末考査		なし。状況により小テスト（美術史）を実施。	○		
	3	▲作家探求	・ 作家について，調べてまとめる。 ・ 1年間の学習を振り返り，美術の環境や今後の自分への繋がりを考える。	○	○	○

評価の観点 (1)「知識及び技能」，(2)「思考力，判断力，表現力等」，(3)「学びに向かう力，人間性等」

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識するべきか）		
(1)「知識及び技能」	(2)「思考力，判断力，表現力等」	(3)「学びに向かう力，人間性等」
自分の考えた内容を、教材・教具を生かし表現できたか。造形の要素の働きや，全体のイメージや作風，様式などで捉えることを理解しているか。	主題の生成や創造的な表現の構想ができてきているか。自然や生活の中から美しさを感じ取り、豊かな発想をし，表現を工夫しているか。	作品に対する考察・まとめを通して他者と意見を交わし，異なる価値観についての比較・考察をすることができたか。それぞれの課題への前向きな取り組み。授業態度。出欠状況等。

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
「美術Ⅱ」は，「美術Ⅰ」の学習を基礎にして，生徒の能力，適性，興味・関心などに応じた活動を展開し，美術の諸能力を伸ばすことをねらいとしています。「表現」及び「鑑賞」についての創造的な美術の諸活動を通して，自然や自己，社会などを深く見つめ表現する能力や，美術作品を多様な視点から分析したり，心豊かな生き方にかかわる美術の働きを理解したりするなどの鑑賞の能力を伸ばします。 「表現」は「絵画・彫刻」，「デザイン」，「映像メディア表現」の三つの分野から成り，「鑑賞」は美的直感力や柔軟な思考力，判断力等を身に付けることを重視しています。 授業で使う物は，教科書，筆記用具，スケッチブック，ワークシート，教材などです。刃物や塗料，薬品類など，扱いに注意を要する物もあります。安全には充分留意し，説明を良く聞くようにしてください。また，移動教室になりますので，早めの移動を心がけ，遅刻をしないようにしましょう。挨拶，準備，後片付けはとても大切です。出来ない者は減点の対象にもなります。 評価は，(1)「知識及び技能」，(2)「思考力，判断力，表現力等」，(3)「学びに向かう力，人間性等」の三つの柱から総合的に判断します。実技を伴いますので，作品点の割合が多くなりますが，出席状況や授業態度はもちろん，ワークシートの記入状況も加味しながら，成績を算出します。 美術が心豊かな生き方を実現するために役立っていることに気付くとともに，よりよいものを生み出そうとする自覚を高め，美術の社会における役割，また，日本及び諸外国の美術文化についての理解を深めていくことが大切です。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
芸 術	[美術Ⅲ]

履修学科	普通科
履修学年	第3学年
履修単位	単位 2
教科書	(日文 高校生の美術 3)
副教材	(ー)

科目の指導目標
美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことができるようにする。 (2) 造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を働かせて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3) 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、美術文化を尊重し、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

学期	月	単元名	学習内容	評価の観点		
				①	②	③
1学期	4	オリエンテーション 「美しいとは何か」 下地研究	・授業の目的、進め方、評価方法などについて知る。教科書を鑑賞する。(ワークシート) ・絵画表現におけるマチエール、下地について研究し、実験を行う。	○	○	○
	5	下地を生かした作品制作 (15号、奄美をテーマに)	・作品のテーマを決定し、それに基づく取材を行い、構成を練る。	○	○	○
	6	下地を生かした作品制作 (15号、奄美をテーマに)	・F15号キャンバスに下地を施し、作品制作に取り組む。	○	○	○
	期末考査		なし。状況により小テスト(美術史)を実施。	○		
	7	下地を生かした作品制作 (15号、奄美をテーマに)	・制作を進め、作品を完成させる。 ・額装を行う。	○	○	○
2学期	9	大作の制作 鉛筆、木炭デッサン(構成、想定)	各自、テーマを決め、それに合わせた画材を選択し、大作に挑む。	○	○	○
	10	大作の制作 鉛筆、木炭デッサン(構成、想定)	各自、テーマを決め、それに合わせた画材を選択し、大作に挑む。	○	○	○
	11	大作の制作 鉛筆、木炭デッサン(構成、想定)	各自、テーマを決め、それに合わせた画材を選択し、大作に挑む。	○	○	○
	期末考査		なし。状況により小テスト(美術史)を実施。	○		
	12	大作の制作 鉛筆デッサン(構成、想定)	各自、テーマを決め、それに合わせた画材を選択し、大作に挑む。	○	○	○
3学期	1	自宅学習期間		○	○	○
	2	自宅学習期間		○	○	○
	学年末考査		なし	○		
	3	自宅学習期間		○	○	○

評価の観点 (1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
(1)「知識及び技能」	(2)「思考力、判断力、表現力等」	(3)「学びに向かう力、人間性等」
自分の考えた内容を、教材・教具を生かし表現できたか。造形の要素の働きや、全体のイメージや作風、様式などで捉えることの理解。	主題の生成や創造的な表現の構想ができているか。自然や生活の中から美しさを感じ取り、豊かな発想をし、表現を工夫しているか。	作品に対する考察・まとめを通して他者と意見を交わし、異なる価値観についての比較・考察をすることができたか。それぞれの課題への前向きな取り組み。授業態度。出欠状況等。

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
「美術Ⅲ」は、「美術Ⅰ」及び「美術Ⅱ」における学習を基礎にして、更に生徒の皆さんの能力、適性、興味・関心等に応じた活動を展開し、美術の諸能力を伸ばすことをねらいとしています。また将来、美術を専門的に学び、職業生活に活かそうとする生徒に対して、より質の高い学習内容を提供します。 内容は「表現」と「鑑賞」に分かれており、それぞれ独創的な主題の生成、自己の価値観を働かせて作品を読み取り味わうことに重点が置かれています。 授業で使う物は、教科書、筆記用具、スケッチブック、ワークシート、教材などです。刃物や塗料、薬品類など、扱いに注意を要する物もあります。安全には充分留意し、説明を良く聞くようにしてください。また、移動教室になりますので、早めの移動を心がけ、遅刻をしないようにしましょう。挨拶、準備、後片付けはとても大切です。出来ない者は減点の対象にもなります。 評価は、「意欲・関心・態度」、「発想や構想の能力」、「創造的な技能」、「鑑賞の能力」の四つの観点から総合的に判断します。実技を伴いますので、作品点の割合が多くなりますが、出席状況や授業態度はもちろん、ワークシートの記入状況も加味しながら、成績を算出します。 美術の作品は、言語や習慣などの違いを越え、そのよさや美しさを通してつくった人の考えや心情、感性などを伝えることが出来ます。国や民族などの違いを越えて、美の心や価値を共有することが出来ます。そのように美術が共通言語として、国際間の文化理解に果たす役割を理解し、交流ができる人材に皆さんが成長してくれることを期待しています。また、そのための手立て、進路に関わる相談、対策にも柔軟に対応していきます。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
芸 術	ビジュアルデザイン

履修学科	総合学科（生活科学系列）※必修
履修学年	第2学年
履修単位	単位 2
教科書	(-)
副教材	(-)

科目の指導目標
ビジュアルデザインに関する学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 視覚的な伝達効果について理解を深めるとともに、専門的な技能を身に付けるようにする。 (2) 表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。 (3) ビジュアルデザインの可能性を追求する態度を養う。

学期	月	単元名	学習内容	評価の観点		
				(1)	(2)	(3)
1 学期	4	○オリエンテーション ○絵文字のデザイン	- 年間を通じたビジュアルデザインの内容などを理解する。 - 身近な植物から文字をデザインする。	○	○	○
	5	○シルクスクリーンによる作品制作	- 版画技法について学ぶ。 - アイディアスケッチをする。 - イラスト作成アプリを用いて、デザインの制作を行う。。 - 版を作成し刷る。	○	○	○
	6					
	期末考査		なし	○		
	7	○平面構成	- 色彩の基本について学ぶ。 - テーマ（徳之島の特産品）を決め、構成、配色意識して、アイデアスケッチを行う。 - 下描きを行う。 - アクリアガッシュで彩色を行う。	○	○	○
2 学期	9					
	10	○情報を伝えるデザイン	- ピクトグラムの役割などについて理解する。 - 学校の特別教室などのピクトグラムを考える。 - ICT 機器を用いて、作成する。	○	○	○
	11					
	期末考査		なし	○		
	12	○修学旅行デザインレポート (お土産ハンティング)	様々なお土産のパッケージの撮影を行い、レポートを作成する。	○	○	○
3 学期	1	○パッケージデザイン	- パッケージデザインについて理解する。 - 商品のパッケージのデザインを考える。 3面図を作成し、彩色を行う。	○	○	○
	2					
	学年末考査		なし	○		
	3	○トリックアート	トリックアートの技法について学んだり、制作を行ったりする。	○	○	○

評価の観点 (1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
(1)「知識及び技能」	(2)「思考力、判断力、表現力等」	(3)「学びに向かう力、人間性等」
自分の考えた内容を、教材・教具を生かし表現できたか。造形の要素の働きや、全体のイメージや作風、様式などで捉えることの理解。	主題の生成や創造的な表現の構想ができていないか。自然や生活の中から美しさを感じ取り、豊かな発想をし、表現を工夫しているか。	作品に対する考察・まとめを通して他者と意見を交わし、異なる価値観についての比較・考察をすることができたか。それぞれの課題への前向きな取り組み。授業態度。出欠状況等。

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
この科目では、ビジュアルデザインに関する学習を通して、デザインの視覚的効果や伝達機能について理解を深め、生活や社会に生きて働く視覚伝達デザインの表現と鑑賞の能力を高めることをねらいとしています。 内容は、(1) デザインの基礎 (2) 平面・立体デザイン (3) 空間デザイン (4) 図法、表示法 (5) 鑑賞に分かれています。 授業で使う物は、教科書、筆記用具、スケッチブック、ワークシート、教材などです。刃物や塗料、薬品類など、扱いに注意を要する物もあります。安全には充分留意し、説明を良く聞くようにしてください。また、移動教室になりますので、早めの移動を心がけ、遅刻をしないようにしましょう。挨拶、準備、後片付けはとても大切です。出来ない者は減点の対象にもなります。 評価は、「意欲・関心・態度」、「発想や構想の能力」、「創造的な技能」、「鑑賞の能力」の四つの観点から総合的に判断します。実技を伴いますので、作品点の割合が多くなりますが、出席状況や授業態度はもちろん、ワークシートの記入状況も加味しながら、成績を算出します。 授業を通して、デザインが社会の変化や人々の生活と密接な関係をもつ造形活動であることを理解できるようにするとともに、絶えず新しい技術や動向に留意し芸術性を追求する態度を身に付けることが大切です。また、伝統行事や生活の中に見られる意匠にも目を向け、広い視野をもって学校生活に取り組むようにしましょう。きっと目にする全てのものが、より一層輝いて見えるはずです。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
芸 術	ビジュアルデザイン

履修学科	総合学科（生活科学系列）※選択
履修学年	第 3 学年
履修単位	単位 3
教科書	(ー)
副教材	(ー)

科目の指導目標
ビジュアルデザインに関する学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 視覚的な伝達効果について理解を深めるとともに、専門的な技能を身に付けるようにする。 (2) 表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。 (3) ビジュアルデザインの可能性を追求する態度を養う。

学期	月	単元名	学習内容	評価の観点		
				(1)	(2)	(3)
1学期	4	○オリエンテーション ○造形あそび	・ 年間を通じたビジュアルデザインの内容などを理解する。 ・ 遊びと，美術の関連を考える	○	○	○
	5	○自然素材を生かした工芸品の制作 (ソテツ実を使った鈴の制作)	・ ソテツを採取して，加工する。 ・ 描く絵柄の構想を練る。 ・ 実に絵を描く ・ 鈴，紐をつけて仕上げる。	○	○	○
	6					
	期末考査		なし	○		
	7	○テクスチュアの研究	・ 様々な素材を使い，違う絵肌を作る研究をする。 ・ 抽象画について学ぶ。	○	○	○
2学期	9	○テクスチュアアートの制作	・ 実験で生まれた絵肌を下地として扱う。 ・ 海岸で拾ってきた素材を ・ 絵の具などを使い，作品を完成させ，相互鑑賞を行う。	○	○	○
	10					
	11	○紙の可能性を探る	・ 紙の様々な使い方や加工方法を考える。			
	期末考査		なし	○		
	12	○プリーツアートの制作	・ 紙を用いた，プリーツ加工（折り）の技法について理解する。 ・ プリーツ加工の技法を用いて，立体作品の制作	○	○	○
3学期	1					
	2	※自宅学習期間				
	学年末考査					
	3	※自宅学習期間				

評価の観点 (1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
(1)「知識及び技能」	(2)「思考力、判断力、表現力等」	(3)「学びに向かう力、人間性等」
自分の考えた内容を、教材・教具を生かし表現できたか。造形の要素の働きや、全体のイメージや作風、様式などで捉えることの理解。	主題の生成や創造的な表現の構想ができていないか。自然や生活の中から美しさを感じ取り、豊かな発想をし、表現を工夫しているか。	作品に対する考察・まとめを通して他者と意見を交わし、異なる価値観についての比較・考察をすることができたか。それぞれの課題への前向きな取り組み。授業態度。出欠状況等。

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
この科目では、ビジュアルデザインに関する学習を通して、デザインの視覚的効果や伝達機能について理解を深め、生活や社会に生きて働く視覚伝達デザインの表現と鑑賞の能力を高めることをねらいとしています。 内容は、(1) デザインの基礎 (2) 平面・立体デザイン (3) 空間デザイン (4) 図法、表示法 (5) 鑑賞に分かれています。 授業で使う物は、教科書、筆記用具、スケッチブック、ワークシート、教材などです。刃物や塗料、薬品類など、扱いに注意を要する物もあります。安全には充分留意し、説明を良く聞くようにしてください。また、移動教室になりますので、早めの移動を心がけ、遅刻をしないようにしましょう。挨拶、準備、後片付けはとても大切です。出来ない者は減点の対象にもなります。 評価は、「意欲・関心・態度」、「発想や構想の能力」、「創造的な技能」、「鑑賞の能力」の四つの観点から総合的に判断します。実技を伴いますので、作品点の割合が多くなりますが、出席状況や授業態度はもちろん、ワークシートの記入状況も加味しながら、成績を算出します。 授業を通して、デザインが社会の変化や人々の生活と密接な関係をもつ造形活動であることを理解できるようにするとともに、絶えず新しい技術や動向に留意し芸術性を追求する態度を身に付けることが大切です。また、伝統行事や生活の中に見られる意匠にも目を向け、広い視野をもって学校生活に取り組むようにしましょう。きっと目にする全てのものが、より一層輝いて見えるはずです。